



杉山たかひのニュース

市議会内 日本共産党市会議員団控室 Tel.35-3368

自宅 西宮市津門仁辺町5-21 Tel.35-1682

団ホームページ <http://nishinomiya.jcp-giin.net/>

ブログ <http://yaplog.jp/jcpnishisugi/> (携帯も可)

UR借り上げ市営住宅問題

「住み続けたい」切実な住民の声

阪神淡路大震災から十七年が過ぎ、震災で家を失った被災者が、今度は行政により住み慣れた家を失う事態となっている、UR借り上げ市営住宅問題。

杉山たかひの議員は、自治会からの要請を受け5月

16日、津門大箇町のルネシテイで同問題で講演、3つの団地から会場いっぱいの方が参加されました。

この集会を契機に、多くの借り上げ住宅から「いっしょにがんばろう」と、連帯感が生まれています。

住宅が少なく、希望する住宅が不足、③同じ災害住宅入居者と比べて、転居を求められるのは不公平、④市営住宅の新規募集が半減する、など問題点を明らかにしました。

市の方針は問題だらけ

西宮市は、5つの団地を全てURに返還し、借り上げ終了時までの約5年間で入居者を他の市営住宅へ「あっせん」して「住み替え」させる計画です。

杉山議員は、①高齢者が多く転居そのものが困難、②住み替え募集に活用する

UR 借り上げ住宅問題を市議会一般質問で取り上げます

6月27日(水)午後2時頃より日本共産党西宮市会議員団を代表して、まつお正秀議員が質問します。ぜひ、傍聴にお越しください。(時間は前後します)

県住み替え募集では4割の住宅に応募なし

杉山議員の調査では、2007～11年度の5年間の新規入居は1095戸。借り上げ住宅5団地447世帯が入居すれば、今後の新規入居は年間130戸程度と予測されます。しかも、兵庫県が実施した2回の借り上げ県営住宅からの住み替え募集では、4割以上の住宅は「応募なし」、つまり転居が困難な住宅というこ

現方針は破たん 継続入居の道しかない

県の募集を見ても、「あつせん住み替え募集」では、447戸のUR借り上げ住宅居住者の移転は不可能だと予測されます。いま、市

がやるべきは国の支援を受けてURから「買い取る」か「借り上げ延長」を決断することです。

杉山議員は、「市に方針変更をさせるには、居住者が声を上げることです。5つの団地が協力し、神戸などとも連携する必要がありません。そして市民にも理解と協力を求めよう。」と呼びかけました。

居住者の思い、力集めて

「住み続けたい」という思いが、5つの団地の居住者を結びつける力となっています。西宮市にはそれに応える財力があります。市長に決断を求めましょう。日本共産党西宮市会議員団は、引き続き力を尽くします。

小学校にも一日も早くエアコン設置を

5月30日、新日本婦人の会が教育委員会と懇談、杉山議員も小学校のエアコン問題で参加しました。(左下写真)

3月議会、市教委は、中学校のエアコン設置を2013、14年度実施し、15年度から小学校も設置するよう最大限の努力をすると、小学校の「先送り」を修正する方針を明らかにしました。しかし、「小学校にも一日も早く」が願いです。

懇談では、「保護者から苦情は小学校ばかり」と、小学校のエアコン設置に同理があることがあきらかに。

「暑くて水道水をはがぶ飲みする。飲料水を置くべきでは」など、設置要望と同時に、それまでの間の対策も求められました。

署名運動にも取り組むとのこと。

